

令和2年度
特定非営利活動法人 光の岬福祉研究会

児童デイサービスきらり利用児童の
保護者による評価調査報告書

調査概要

1. 目的

去る平成29年1月、厚生労働省によって「放課後等デイサービスガイドライン」の遵守と自己評価結果の公表に関するガイドラインが出されました。

また、平成29年4月より児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準（平成24年2月厚生労働省令第15号）の規定により、障害児通所支援事業者に、自己評価等の公表が義務付けられたことを受け、法人の運営する放課後等デイサービス事業所2カ所の利用者を対象に、事業所が提供しているサービスについてどのように感じているのか、その現状を把握するとともに、その改善点を明らかにし、事業所運営の参考にすることを目的に調査を実施した。

2. 調査対象

放課後等デイサービスを利用している児童の保護者27名を対象に調査を実施した。16名から回答があり、回収率と有効回答率は下記のとおりである。

回収率 59.2% 有効回答率 59.2%

3. 調査期間

令和3年1月4日（月）～令和3年2月6日（土）

4. 調査方法

厚生労働省による「放課後等デイサービス自己評価票（事業者用）」のチェック項目を基に、5件法および自由記述で回答いただいた。調査は調査票に記入していただく方式とし、事業所の担当者から各保護者に調査依頼文書等とあわせて配布した。

調査票の回収は、個人が特定できないようにし、調査票と共に配布した返信用封筒にて郵送していただいた。

また、昨年度までは、青森県立保健大学の齋藤史彦先生に調査を依頼していたが、調査項目に毎年大きな変化がないため、調査方法に変化をつけ回答率を伸ばす試みとして、法人から直接依頼することとした。

5. 倫理的配慮

調査票の回収は匿名で行い、個人が特定されないようにした。

児童デイサービスきらり保護者評価集計表

回答率59% 有効回答数16名

	チェック項目	そう思う		どちらかと言えばそう思う		どちらとも言えない		どちらかと言えばそう思わない		そう思わない		無回答	
		人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比
①	この事業所は、児童の人数に対して、訓練含む活動のスペースが十分に確保されていると思う。	10	63%	5	31%	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%
②	この事業所の職員数は児童の数に対して十分に適切である。	9	56%	6	38%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%
③	この事業所の設備は、バリアフリーの観点から見て適切な配慮が、十分になされている。	6	38%	5	31%	3	19%	2	13%	0	0%	0	0%
④	この事業所は、保護者に支援内容や利用者負担など、利用に必要な情報について丁寧な説明を行っている。	12	75%	4	25%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑤	この事業所は児童や保護者からの苦情にどのように対応するかを丁寧に説明している。	12	75%	4	25%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑥	この事業所は個人情報の管理体制について、保護者に説明している。	11	69%	4	25%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%
⑦	この事業所は定期的に、活動概要等の情報や自己評価結果など、事業所の運営に関する情報を児童や保護者に公開している。	12	75%	3	19%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%
⑧	この事業所は児童と保護者のニーズや課題を放課後等デイサービス計画に反映している。	12	75%	4	25%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑨	この事業所は活動プログラムがパターン化しないような工夫をしている。	10	63%	4	25%	2	13%	0	0%	0	0%	0	0%
⑩	この事業所は地域住民や障害のない児童など、事業所外との交流を行っている。	4	25%	3	19%	9	56%	0	0%	0	0%	0	0%
⑪	この事業所の職員とは、日頃から児童の発達や課題について、共通理解をもっている。	12	75%	4	25%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑫	この事業所では必要に応じて保護者に対する面談を行っている。	12	75%	4	25%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑬	この事業所では、保護者同士の連携が支援されている。	1	6%	3	19%	11	69%	1	6%	0	0%	0	0%
⑭	この事業所は、児童や保護者からの苦情に対して、迅速かつ丁寧に対応している。	10	63%	6	38%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑮	あなたはこの事業所の緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルをよく理解している。	4	25%	6	38%	5	31%	1	6%	0	0%	0	0%
⑯	この事業所は非常災害の発生に備え、必要な訓練を定期的に行っている。	5	31%	3	19%	8	50%	0	0%	0	0%	0	0%
⑰	あなたからみて、子どもはこの事業所への通所を楽しんでいる。	15	94%	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%

⑩ この調査や法人、事業所の運営についてご意見がありましたら、ご記入ください。

- ・いつもありがとうございます。お世話になっています。きらりに行く事を子供がとても喜んでいて、楽しいみたいです。親としても、それはとてもうれしい事です。これからもよろしくお願ひ致します。
- ・いつも大変お世話になっております。デイサービスのみならず、学校生活で困った時も、助けて頂いて本当に感謝しています。職員の皆さんも、あたたかく、いい方ばかりで、ありがとうございます。何も不満もありません。子供はいつも安心して楽しく参加できています。私たち親と子供に生きる光をあたえてくださり、ありがとうございます。これからも、お世話になります。
- ・通所、とても楽しんでいます。
- ・おかげ様で、楽しく利用させていただいています。色々工夫してゲームやおもちゃなどで楽しませてもらって、満足して帰つてくるので本当に感謝しています。

保護者からの放課後等デイサービス事業所評価の集計を踏まえた対応等について

	チェック項目	調査結果から感じた対応について
①	この事業所は、児童の人数に対して、訓練含む活動のスペースが十分に確保されていると思う。	・十分なスペースは確保されていると思われる。 ・部屋数は多いが、おにごっこや運動などの活動には狭さを感じる時があるので、環境などの工夫が必要。
②	この事業所の職員数は児童の数に対して十分に適切である。	・十分な人数は配置されていると思われる。
③	この事業所の設備は、バリアフリーの観点から見て適切な配慮が、十分になされている。	・どちらとも言えないが3名あり。スタッフ内で話し合いをし、検討する必要があり。 ・バリアフリー対応の利用者さんがいた場合だと、段差などが厳しいと思われる。
④	この事業所は、保護者に支援内容や利用者負担など、利用に必要な情報について丁寧な説明を行っている。	・そう思うのご意見が多かったので、今後も丁寧にわかりやすく説明をしていきます。
⑤	この事業所は児童や保護者からの苦情にどのように対応するかを丁寧に説明している。	・保護者さんからのご意見には、スタッフ間で話し合いその内容をわかりやすく説明を実施できていると思われます。今後も保護者さんの声に耳を傾け、ご意見がいただけた姿勢も変わらず実施していきます。
⑥	この事業所は個人情報の管理体制について、保護者に説明している。	・どちらとも言えないが1名あり。個人情報の保護の取り組みについて、丁寧に説明していきたい。スタッフ間で個人情報の管理について何度も確認します。
⑦	この事業所は定期的に、活動概要等の情報や自己評価結果など、事業所の運営に関する情報を児童や保護者に公開している。	・どちらとも言えないが2名あり。HP以外にも、本事業所独自で通信や、文書、写真などを用いてもっと伝える機会を増やします。
⑧	この事業所は児童と保護者のニーズや課題を放課後等デイサービス計画に反映している。	・保護者さんのニーズには、スタッフで皆で相談しながら反映していると思われる。 ・ニーズに答えられる部分と、答えられない部分もあやふやな答えではなく、答えられない部分もここまでなら答えられるなどしっかり示していきたい。
⑨	この事業所は活動プログラムがパターン化しないような工夫をしている。	・パターン化にならないようにスタッフ皆で案を出しています。 ・外出場所などは、コロナ禍で限られてしまっているのでパターンになっているのでは。 ・曜日で毎回同じ活動になっているかもしれないでの、細かく分析する。 ・お子さん一人ひとりの要望に答えられるようにアセスメントも実施。
⑩	この事業所は地域住民や障害のない児童など、事業所外との交流を行っている。	・コロナ禍で交流が無いのが現状。今後、コロナの状況を確認しながら実施を検討。 ・外出時、近所の人にお子さんから挨拶する場面も見られる。
⑪	この事業所の職員とは、日頃から児童の発達や課題について、共通理解をもっている。	・そう思うのご意見が多かったので、今後も丁寧にわかりやすく説明をしていきます。
⑫	この事業所では必要に応じて保護者に対する面談を行っている。	・年1回の保護者面談を実施している。それ以外にも、保護者さんからの相談にも対応。 ・送迎時、来所時には、その日の様子だけでなく自宅や学校の情報をいただくなど、気軽に相談できる事業所を目指します。
⑬	この事業所では、保護者同士の連携が支援されている。	・保護者さん同士で集まる機会が無い。 ・以前、茶話会など実施した時には保護者さんが集まる機会があったので今後検討。 ・コロナ禍で集まる機会に躊躇あり。
⑭	この事業所は、児童や保護者からの苦情に対して、迅速かつ丁寧に対応している。	・お子さんや保護者さんからのお話を聞き、スタッフ全員で話し合いをし、保護者さんに伝えている。今後も継続して迅速かつ丁寧に対応していきます。
⑮	あなたはこの事業所の緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルをよく理解している。	・保護者さんが目につく場所に掲示します。 ・伝える機会を設けていないので、年度始まりなどにマニュアルを提出する。
⑯	この事業所は非常災害の発生に備え、必要な訓練を定期的に行っている。	・実施できていないので、災害について備える必要がある。 ・計画的に避難訓練等を実施し、保護者さんに伝える。
⑰	あなたからみて、子どもはこの事業所への通所を楽しんでいる。	・そう思うの意見が多い事には嬉しく思う。 ・どちらとも言えないの意見が1名あり。 ・これからもそう思うの意見を継続できるように、一人ひとりとしっかりと向き合っていき、スケジュールや活動の見直し、アセスメントなども細かく行き、より良い楽しい場所を提供できるようにします。
【総評】		

令和2年度
特定非営利活動法人 光の岬福祉研究会

児童デイサービスきらり職員による
自己評価調査報告書

青森県立保健大学 健康科学部 社会福祉学科
齋藤史彦

調査概要

1. 目的

去る2017年1月、厚生労働省によって「放課後等デイサービスガイドライン」の遵守と自己評価結果の公表に関するガイドラインが出されたことを受け（平成29年4月からは義務実施）、NPO法人光の岬福祉研究会の依頼に基づき、同法人の運営する放課後等デイサービス事業所2カ所の職員を対象に、事業所が提供しているサービスについてどのように感じているのか、その現状を把握するとともに、その改善点を明らかにし、事業所運営の参考にすることを目的に調査を実施した。

2. 調査対象

当該法人の運営する児童デイサービスきらりで、直接子どもと関わり支援をしている職員5名を対象に実施した。各調査対象への回収率と有効回答率は下記のとおりである。

回収率100.0% 有効回答率100.0%

3. 調査期間

令和3年2月5日（金）～令和3年2月19日（金）

4. 調査方法

厚生労働省が示す「放課後等デイサービス自己評価票（事業者用）」のチェック項目を基に調査項目を設け、「あてはまる」～「あてはまらない」の5件法で調査票を作成した。

作成した調査票をGoogleフォームにあげ、当該職員がスマートフォン等で入力できるようにした。主な調査項目は以下のとおりである。

- ①環境・体制整備（活動スペース、職員配置数の適否についてなど）
- ②業務改善（PDCAサイクルへの職員参加、自己評価結果の公表など）
- ③適切な支援の提供（面談の有無、プログラムが固定化しない工夫など）
- ④関係機関や保護者との連携（学校との情報共有など）
- ⑤保護者への説明責任（利用者負担等についての説明、個人情報の扱いなど）
- ⑥非常時等の対応（避難訓練等の実施、ヒヤリハット集の作成など）
- ⑦回答者の属性（年齢、障害児福祉分野での経験年数）
- ⑧その他

5. 倫理的配慮

調査票の回収は匿名で行い、個人が特定されないようにした。また、データは本調査以外では使用せず、回答用紙は人の目に触れないよう厳重に保管することや、この調査への協力は任意であり、協力しない場合であってもなんら不利益にはならないことを調査依頼文書に明記することで、プライバシーに配慮し、任意での調査であることを伝えた。

職員による自己評価集計表

	Q 1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	そう思う 5		どちらかと言えれば そう思う 4		どちらとも言えない 3		どちらかと言えれば そう思わない 2		そう思わない 1		無回答	
		人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比
①	Q 2 職員の配置数は適切である	0	0.0%	3	60.0%	1	20.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%
②	Q 3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	20.0%	1	20.0%	2	40.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
③	Q 4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	0	0.0%	2	40.0%	0	0.0%	2	40.0%	1	20.0%	0	0.0%
④	Q 5 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	20.0%	2	40.0%	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑤	Q 6 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	60.0%	0	0.0%	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑥	Q 7 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	3	60.0%	1	20.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑦	Q 8 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3	60.0%	1	20.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑧	Q 9 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	40.0%	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑨	Q 10 活動プログラムの立案をチームで行っている	2	40.0%	2	40.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑩	Q 11 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	2	40.0%	2	40.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑪	Q 12 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	2	40.0%	2	40.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑫	Q 13 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	3	60.0%	0	0.0%	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑬	Q 14 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	80.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑭	Q 15 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	20.0%	2	40.0%	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑮	Q 16 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	1	20.0%	3	60.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑯	Q 17 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	60.0%	0	0.0%	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑰	Q 18 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	1	20.0%	3	60.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑱	Q 19 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	3	60.0%	1	20.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑲	Q 20 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	3	60.0%	1	20.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑳	Q 21 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	0.0%	3	60.0%	0	0.0%	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%

(22)	Q 2 2 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	60.0%	1	20.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
(23)	Q 2 3 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	80.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
(24)	Q 2 4 児童発達支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	0.0%	4	80.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
(25)	Q 2 5 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	80.0%	0	0.0%
(26)	Q 2 6 (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	0	0.0%	1	20.0%	3	60.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
(27)	Q 2 7 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	80.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	20.0%
(28)	Q 2 8 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	0.0%	1	20.0%	2	40.0%	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%
(29)	Q 2 9 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	60.0%	1	20.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
(30)	Q 3 0 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2	40.0%	2	40.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
(31)	Q 3 1 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	0.0%	2	40.0%	2	40.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
(32)	Q 3 2 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	2	40.0%	2	40.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
(33)	Q 3 3 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	60.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%
(34)	Q 3 4 個人情報に十分注意しているか	4	80.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%
(35)	Q 3 5 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	60.0%	1	20.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
(36)	Q 3 6 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	0.0%	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%	2	40.0%	0	0.0%
(37)	Q 3 7 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	0	0.0%	1	20.0%	3	60.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%
(38)	Q 3 8 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	0	0.0%	1	20.0%	3	60.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%
(39)	Q 3 9 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	40.0%	2	40.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
(40)	Q 4 0 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービ	1	20.0%	2	40.0%	0	0.0%	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%
(41)	Q 4 1 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	60.0%	0	0.0%	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
(42)	Q 4 2 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	0	0.0%	4	80.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%

職員による自己評価の集計結果を踏まえた対応等について

		工夫している点、課題や改善すべき点など
①	Q 1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<ul style="list-style-type: none"> 利用定員と指導訓練スペースとの関係をほぼ適切と認識しているが、おにごっこや運動をする時にはテーブル等の移動などの環境の配慮が必要。
②	Q 2 職員の配置数は適切である	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時に職員数の不足を感じる時があるが、ルートの最適化やヘルプをいれながら動いている。 部屋数が多く、お子さんが分散する時には、お子さんだけにならないように工夫が必要。
③	Q 3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	<ul style="list-style-type: none"> ハード面での必要性を感じる。トイレや階段やスロープの必要性等。予算に応じて必要な所から改修していくようとする。
④	Q 4 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	<ul style="list-style-type: none"> すべての職員が業務改善に主体的に取り組むことができるよう、話し合う機会を設ける。
⑤	Q 5 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<ul style="list-style-type: none"> HPでの公開を前提に、必要とあれば通常業務の負担にならない程度に、会報も発行するようとする。
⑥	Q 6 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 第三者による評価を職員間で共有できるように、評価結果を回覧する。
⑦	Q 7 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	<ul style="list-style-type: none"> 年二回の事業所内研修の他に、外部研修にも参加している。 今年度は、外部の研修がコロナ禍で少なめであった。
⑧	Q 8 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> 日々の関わりがアセスメントであるとの考えのもと、状態を把握し、保護者ともニーズの共有をするようにしている。
⑨	Q 9 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<ul style="list-style-type: none"> 標準化されたアセスメントツールを使用するようにする。 アセスメントツールの見直しも必要。
⑩	Q 10 活動プログラムの立案をチームで行っている	<ul style="list-style-type: none"> 個別の計画についてチームで修正するようにしている。
⑪	Q 11 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> 固定化しないように、毎日違った活動をスタッフ全員で提案し取り組み、振り返りの時間も設定し次の活動に活かしている。
⑫	Q 12 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	<ul style="list-style-type: none"> 活動時間の長短によって、活動を設定している。 普段からお子さんの要望等を確認する体制を実施し、取り組んでいる。
⑬	Q 13 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> 適性に応じて、集団から個別へ、個別から集団へ等臨機応変にできるように作成している。
⑭	Q 14 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<ul style="list-style-type: none"> 毎日、その日の申し送りを行い、確認している。
⑮	Q 15 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<ul style="list-style-type: none"> 就業時間内に行う工夫は必要だが、支援開始前の打ち合わせに集約することで、出来事の共有はできている。
⑯	Q 16 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳を複写式にし、保護者さんの要望や意見、その日の活動内容を記録し、その日のお子さんの行動面等で気になる点も記録。
⑰	Q 17 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	<ul style="list-style-type: none"> 会議の中で、ケース検討をしながら、6ヶ月毎のモニタリングに合わせ、修正するべき所は修正している。
⑱	Q 18 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> そのように行っております。
⑲	Q 19 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	<ul style="list-style-type: none"> 担当者、児童発達管理責任者が出席。
⑳	Q 20 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	<ul style="list-style-type: none"> 適切に行えていると思うので、今後も継続していく。
㉑	Q 21 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	<ul style="list-style-type: none"> 現在、医療的ケアが必要な子どもの利用はないが、受け入れる場合にそなえて、連絡体制等の準備をしておく。

(22)	Q 2 2 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	・相談支援専門員を介して情報共有は出来ているが。必要があれば、直接情報提供を求めるようにしている。
(23)	Q 2 3 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	・可能な限り、関係機関の参加のもと、移行支援会議を開催している。
(24)	Q 2 4 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	・必要性を感じた時に、助言や研修を受ける体制は整えている。
(25)	Q 2 5 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	・現在は、機会がないがニーズの有無によっては、交流する機会を増やしていくようにする。
(26)	Q 2 6 (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	・参加していない状況なので、会議の日程等を確認しながら積極的に参加する。
(27)	Q 2 7 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	・面談や送迎、来所時の申し送り等で、共通理解を持つように努めている。
(28)	Q 2 8 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	・個別事案の相談に応じる形で対応している。
(29)	Q 2 9 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	・主に契約時に説明しているが、質問等あれば、その都度対応していく。
(30)	Q 3 0 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	・相談等があれば、職員間で共有し、家庭、デイで取り組めること等の助言を行っている。
(31)	Q 3 1 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	・現在は、父母会等の集まる機会がないが、ニーズの有無を調査の上、コロナの状況も確認しながら保護者が集まる会を作ることを検討していく。
(32)	Q 3 2 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	・日頃から信頼関係の構築に努めているため、苦情への対応も早急に出来ていると思うが、表に現れない苦情等も把握するように心がけていく。
(33)	Q 3 3 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	・HPでの公開や、活動の様子の手紙の配布をしているが、必要とあれば通常業務の負担にならない程度に、会報も発行するようにする。
(34)	Q 3 4 個人情報に十分注意しているか	・個人情報の取り扱いには、細心の注意をはらっているが、常にチェックするようにする。
(35)	Q 3 5 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	・文字や写真、絵、具体物などを提示していきながらその子の特性に合わせた、伝え方をするように配慮している。
(36)	Q 3 6 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	・行事等には特別招待しないが、コロナの状況も確認しながら地域と関われる企画を検討します。
(37)	Q 3 7 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	・感染症マニュアルは配布しているので、その他マニュアルも配布、建物内にも掲示を検討。
(38)	Q 3 8 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	・避難訓練の実施及び、避難場所の把握を常に念頭において活動するようにする。 ・今年度は、実施できていないので来年度は計画的に実施。
(39)	Q 3 9 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	・アンガーマネジメント等外部の研修に参加するようにしている。 他、職員間で話し合い虐待への意識を高めるようにする。
(40)	Q 4 0 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	・全てのお子さんに身体拘束の必要性があるとはいえないが、仮に身体拘束をするとしたら、ということを説明するようにする。
(41)	Q 4 1 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	・一覧表を作成し、おやつや昼食時に確認している。保護者が、食べて欲しくない物やきざみが必要かどうかを確認するようにする。
(42)	Q 4 2 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	・状況の把握と対策については、職員間で共有しスピーディーに対応策を検討。実施後のモニタリングも行っています。